

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX: 0595 (21) 8839

E-Mail: iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 B-12 「授業改善に向けた校内研修」を実施しました！ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながる授業研究の推進

【講師】 三重県教育委員会事務局 研修企画・支援課 企画・支援班

主任 小山 美冴さん 主任 西橋 美帆さん

6月23日（火）、研修講座「授業改善に向けた校内研修」兼教研推進委員学習会を実施しました。ここでいう「授業研究」とは「事前検討→研究授業→事後検討→再構成」までを指します。この視点において授業研究に関わる八つの質問から自校の授業研究を振り返りました。例えば「具体的な子どもの姿が共有されているか。教員間で共通理解が図られているか」「1回ごとの授業研究がつながりのあるものになっているか(毎回同じ議論になってはいないか)」「教員 1人ひとりの授業改善につながる事後検討会が実施されているか」等です。

小山さん、西橋さんからは「個々の授業改善につながる」授業研究の事例紹介として、熊本大学 前田康裕特任教授による「授業改善プロジェクト」をご紹介いただきました。これは「主体的・対話的で深い学び」を教師自らが体験的に理解できるようにするものです。事後検討会を例に挙げると、「リフレクションをうながす」ことが肝要だということです。リフレクションとは、自身の行動や思考を客観的に振り返り見つめ直すことで、自分の強みや改善点に気づき、次につなげるプロセスを指します。そうすることで教師一人ひとりが授業研究から気づいた自分の課題に沿って日常的に授業改善を行い、探求的に学べると教えていただきました。教師自らが「日常的に授業改善を行う」ことは、「毎日を研修にする」(山口周著『人生の経営戦略』ダイヤモンド社)ことであるという意識を教職員全員で共有し、実践することが子どもの学びや力に必ずつながると改めて感じました。

講座中、何度か演習の時間がありました。どのグループも先生方で言葉をつなぎながら概念化し、具体的な取組を付箋に書いていきました。今回の講義や演習から学んだことを取り入れながら、各校・園での授業研究や研修を進めていただければと思います。



アンケートより 【一部抜粋】

- ・校種が違うため、研修内容を理解できるか不安もありましたが、小中学校での学びや学習の視点を、自分なりに園児の「遊び」に置き換えてとらえ、学ぶことができた。グループで対話させていただけなので、学びが深まった。【幼】
- ・自分の授業に生かすために「概念化から具体化する」大事な部分を学校全体でやり切れていなかった。自分の授業改善につなげていくために、その部分を大事にしたい。これまでの事前・事後を振り返ると「自分事として考えられる研修になっていなかったな。子どもの姿を基にして、どこまで考え合えていただろう」と思った。校内研をもっとより良いものにできるなと思った。【小】
- ・研究授業後の事後協議に概念化を入れたい。どうしても教科の専門性が高い振り返りを還流する先生が多く、それを聞いても・・・と思うので、みんなが応用可能な学びの一言を入れて報告してもらおうと考えました。【中】